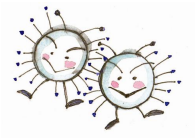
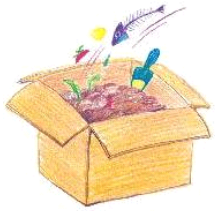


神奈川県川崎市・環境を考え行動する会
「ダンボールコンポストで生ごみリサイクル」



＜会の発足・きっかけ＞

待ったなしの地球温暖化を前に「何かしなくては」との思いから、「限りある資源を浪費することなく、次の世代に少しでもよりよい環境を残したい」と、2007 年 8 月に発足し、現在 10 名の小さな会です。

活動のきっかけとなったのは地球温暖化の危機を訴えた「豪快な号外」。これを約 2 万部配布し、核燃料再処理工場反対署名、田中優氏の講演会などを実施しました。

豪快な号外

2007年 11 月全国レジ袋NO デーアンケート調査に協力し、「家庭からの生ごみを出さない簡単な方法があればレジ袋は減る」との思いが、今の活動の始まりです。

＜循環生活研究所との出会い＞

地中埋め込み式コンポストを奨める一方で、腐葉土と糠のﾀﾞﾝﾎﾞｰﾙｺﾝﾎﾟｽﾄの実践を始めた 2008 年 8 月に、たいらさん出演のテレビ NEWS23 を見たのが循生研との最初の出会いです。「これなら我々でもできそう。」とそのシンプルさに引き込まれました。偶然、中野コンポスト連絡会に出会って情報交換できたのがラッキーで、循生研からも来ていただいて講習会を開きました。主メンバー 6 人が実践を重ね、念願叶って、この夏、会から阿部、天野の 2 名が福岡での「ﾀﾞﾝﾎﾞｰﾙｺﾝﾎﾟｽﾄｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ養成講座」を受講しました。

＜実践者 500名に＞

2008 年 10 月からｽﾀｰﾀｰｷｯﾄを作って希望者に実費で配りはじめ、イベント出展 16 回、自治会、サークルなどでの講座 31 回、6 月に神奈川新聞社会面に取り上げられた事もあって、1 年 3 ヶ月で私達が広めた実践者は500名を越えました。

天野自宅車庫での相談会

実践者へのアンケートや、毎月 2 回の相談会、困った時のレスキュー訪問、後半のお手紙郵送やメール通信などを通して、「みんなでやるﾀﾞﾝﾎﾞｰﾙｺﾝﾎﾟｽﾄの楽しさ」を伝えています。

通信は既に 15 号発信し、若いお母さんから「始めた頃はコンポストを生ごみのごみ箱ととらえていたが、微生物との共同作業なのだと実感がわいてきた。」バラ愛好家の方からは「うどんこ病で弱っていたバラから新芽が出た」「毎日ごみの量をはかり、混ぜるのが楽しみ」というシニア男性など、うれしいお便りが沢山届いています。

基材の仕分けを福祉作業所にお願いできたことで地域との連携が少し広がりました。

＜麻生区地域ｺﾐｭﾆﾃｨ活動支援事業の補助＞

慣れないプレゼンにも挑戦して 2009 年度補助金 10 万円をいただき、実践者大交流会を開いたり、三つ折ちらしや、花壇用プレートを製作、H.P.も開きました。

三つ折りちらし　内側

できた堆肥を麻生区役所前広場のプランターや麻生区中心部の交差点花壇に入れ、写真のようなプレートを立てて生ごみ堆肥をアピールしています。さらに、「市内各区役所のロビーで生ごみリサイクル相談会などを定期的に行いたい。」など、夢をふくらませメンバーが夢中になって走った 1 年でした。　2009.12.16　記

吹込交差点の花壇